

PRIMERGY RX2450 M1 ご使用上の留意・注意事項

PRIMERGY RX2450 M1 に関して、以下の留意・注意事項がございます。製品をご使用になる前にお読みくださいますようお願いいたします。

【留意事項】

1. SEL に記録されないエラーについて

- 1) 本製品は装置の電源オンされた状態で AC 入力が Lost し、装置が電源オフされた場合、SEL にエラーログは残りません。
- 2) 回転しない FAN を実装した状態で、装置を電源オンした場合、FAN 未実装と認識され、SEL にエラーログは残りません。

2. 非サポートの機能について

本製品では、次の機能をサポートしていません。

・システム統合管理ツール群 ServerView Suite は Serverview RAID Manager のみサポートしておりその他についてはサポートしていません。

・OS インストールについて、セットアップ支援ツール ServerView Installation Manager は非サポートのため、各 OS の手動インストール手順をご参照ください。

・障害発生時のリモート通報サービス

(ハードウェアの障害予兆／異常情報を弊社 One-stop Solution Center に自動通報する機能)

・本製品にデュアル M.2 コントローラカード (PDUAL CP100, PY-DMCP24/PYBDMCP24L) を搭載する際、M.2 SSD の寿命確認ができないため、Windows Server 2022 をサポートしません。

3. 内蔵 SSD の寿命確認方法について

本製品に搭載する内蔵 SSD は、書き込み寿命を有する NAND フラッシュを含んだ「有寿命部品」となりません。

詳細情報は、公開 Web (<https://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/support/parts/#parts2>)

の「RX2450 M1 用 内蔵 2.5 インチ SATA/PCIe SSD 書き込み保証値と書き込みデータ量の確認方法」をご参照ください。

4. PCIe SSD を VMware ESXi で使用する場合のホットプラグについて

PCIe SSD を VMware ESXi で使用する場合ホットプラグができません。PCIe SSD の抜き差しは装置の電源オフの状態で行ってください。

5. VMware ESXi 使用時の機能 Disable 設定について

本製品はシステム統合管理ツール群 ServerView Suite が非サポートとなります。そのため、VMware ESXi を使用される際は、OS インストール後に次の手順にて svscimprovider の機能を Disable にしていただく必要があります。

1. ESXi ホストのコンソールにログインするか、SSH で ESXi ホストに root で接続します。
2. コンソールから、次のコマンドを実行し Disable 設定を行います。
`# esxcli system wbem provider set -e 0 -n=vmw_svscimprovider`
3. コンソールから、次のコマンドを実行し CIM サーバの再起動を行います。
`# /etc/init.d/sfcbd-watchdog stop`
`# /etc/init.d/sfcbd-watchdog start`
4. 次のコマンドを実行し、vmw_svscimprovider が Disable されていることを確認します。
`# esxcli system wbem provider list`
Disable されている場合、vmw_svscimprovider(ESXi CIM Provider)の Enabled、Loaded の値が false になります。

実行例:

Name	Enabled	Loaded
Fujitsu_raid0	true	true
sfc_b_base	true	true
vmw_base	true	true
vmw_brcm-cim-provider	true	true
vmw_emulex-cim-provider	true	true
vmw_hdr	true	true
vmw_hhrcwrapper	true	true
vmw_iodmProvider	true	true
vmw_kmodule	true	true
vmw_ksiprovider	true	true
vmw_omc	true	true
vmw_pci	true	true
vmw_qlogic-adapter	true	true
vmw_svscimprovider	false	false

6. HDD アクセランプの誤点灯について

本装置の電源をオフにした際、Disk アクセスがない状態でも、フロントパネルの HDD アクセランプが点灯した状態になる場合があります。本現象が生じた際は全ての電源ケーブルを外した後、電源ランプの消灯を確認後、全ての電源ケーブルを接続し、再度電源をオンにしてください。



7. Disk 未搭載時の HDD アクセランプの誤点灯について

本装置の電源をオンにした際、Disk が未搭載の状態でも、フロントパネルの HDD アクセランプが点灯した状態になる場合があります。本現象が生じた際は本装置の電源をオフにし全ての電源ケーブルを外した後、電源ランプの消灯を確認後、全ての電源ケーブルを接続し、再度電源をオンにしてください。

8. 外付け USB ハブのご利用について

本装置に外付け USB ハブを使用する場合、USB ハブの種類によっては USB ハブに接続した USB デバイスが認識せずご利用いただけない場合がございます。その場合は、USB デバイスを USB ハブを介さず、直接装置に接続してご利用ください。

9. AC-OFF/ON 時の SEL 出力について

・初回 AC-ON 時刻が BMC の作成日時で記録されます。

10. FRU Information の表示について

・BMC 08.10.26 版を適用した場合、BMC Web UI で FRU Information の項目が表示されないことがあります。

・ipmitool コマンドにて FRU 情報を表示可能です。

使用方法等については ipmitool コマンドのヘルプを参照ください。

11. 保守作業時のお願いについて

本製品では、次の前提条件を基に保守作業を実施いたしますので、保守作業を実施する場合に備えて対応をお願いします。

・Mother Board Unit(MBU)を保守交換した場合、BIOS/BMC Firmware の版数は最新版になっていない可能性があります。最新 BIOS/BMC Firmware のアップデートはお客様ご自身で実施する必要があります。最新 BIOS/BMC Firmware は公開 Web (<https://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/bios/>)からダウンロードしてご使用ください。

・MBU を保守交換した場合および BIOS/BMC FIRMWARE をアップデートした場合、BIOS 設定項目/BMC 設定項目は出荷時設定に戻ります。お客様が変更・設定した項目は、環境設定シートに設定情報を記録して保管し、MBU 交換時、BIOS/BMC Firmware アップデート時に環境設定シートの設定情報に再設定してください。

環境設定シートは公開 Web(<https://www.fujitsu.com/jp/products/computing/servers/primergy/manual/>)からダウンロードしてご使用ください。

・Mother Board Unit(MBU)を保守交換した場合、FRU information の Chassis info は表示されません。

・保守作業にコンソール(LCD、USB キーボード、USB マウス)が必要になる場合があります。保守員からコンソール借用のお願いをする場合がありますので、本装置に接続可能なコンソールをあらかじめ準備していただくようお願いします。

・物理環境 または 仮想環境で Windows Server を実行している PRIMERGY において、部品交換・増設を伴う保守作業を実施した場合、Windows Server のライセンス再認証が必要になる場合があります。

詳細情報は、公開ドキュメント (<https://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/pdf/note/ws-license-note.pdf>) をご参照ください。

12. EPYC 7002 シリーズ CPU が搭載されている場合、サーバの連続稼働時間が約 1,044 日 (約 2 年 10 カ月) に達した時点で、サーバ停止に至る事象について

BIOS 設定の CPU 省電力モードが有効な状態(Global C-State Control :Auto)において、サーバの連続稼働時間が約 1044 日(約 2 年 10 カ月)に達すると、CPU が省電力モードに陥り復帰できず、サーバが停止します。

対象 CPU 型名: PYBCPL3A*, PY-CPL3A* (*: 数字またはアルファベット 1 文字が入ります)

以下の回避策1または回避策2の適用をご検討ください。

なお、本事象発生時には、「本事象発生時の復旧方法」の項目をご参照ください。

回避策 1. CPU の省電力動作モードの無効化(BIOS 設定値の変更及びカーネルパラメータ追記)

本作業には、サーバのリブートが必要となります。

また本設定変更により CPU の省電力動作モードが無効化されるため、低負荷状態において製品の消費電力が増加する場合があります。

手順 1. BIOS 設定値の変更手順

1. サーバをリブートし、BIOS セットアップ画面を開きます。
2. "Global C-State Control" の設定を確認し、"Disabled" に変更します。
3. BIOS の設定保存後、サーバをリブートし、設定を反映させます。

※BIOS 設定値を変更する際は、対象製品の「環境設定シート」をダウンロードしてご利用ください。「環境設定シート」は、対象製品トップページから「マニュアル」を選択したページからダウンロードできます。既に BIOS 設定値を記録している場合は、今回の変更に合わせて記録内容を更新してください

※故障等によりシステムボードを交換した場合は、BIOS 設定値の変更内容が引き継がれないため、ご使用前に再度 BIOS 設定値の変更が必要となります。

手順 2. カーネルパラメータの追記手順

ご使用の OS が Linux の場合は、あわせてカーネルパラメータの追記が必要となります。

Windows、VMware の場合は以下の対応は不要です。

Red Hat Enterprise Linux 8, 9 の場合

1. /etc/default/grub を編集し、GRUB_CMDLINE_LINUX 行に以下を追記します。

“processor.max_cstate=0”

2. 以下コマンドを実行し、設定値を反映します。

2.1 Red Hat Enterprise Linux 8 の場合

・BIOS モードの場合

```
# grub2-mkconfig -o /boot/grub2/grub.cfg
```

・UEFI モードの場合

```
# grub2-mkconfig -o /boot/efi/EFI/redhat/grub.cfg
```

2.2 Red Hat Enterprise Linux 9 の場合

・BIOS モード/UEFI モード共通

```
# grub2-mkconfig -o /boot/grub2/grub.cfg
```

3. サーバをリブートし、反映させます。

SUSE Enterprise Server 15 の場合

1. /etc/default/grub の GRUB_CMDLINE_LINUX 行に以下を追記します。

```
“processor.max_cstate=0”
```

2. 以下コマンドを実行し、設定値を反映します。

・BIOS モード/UEFI モード

```
# grub2-mkconfig -o /boot/grub2/grub.cfg
```

3. サーバをリブートし、反映させます。

回避策 2. 定期的なサーバのリブート

BIOS セットアップ画面にて“Global C-State Control”の設定変更をしない場合は、サーバの連続稼働時間が約 1,044 日に達する前に、サーバのリブートを実施して下さい。

なおサーバのリブート後も、再度サーバの連続稼働時間が約 1,044 日に達する前に、定期的にサーバのリブートが必要になります。

連続稼働時間は、OS コマンド等からご確認ください。

※連続稼働時間の確認方法

・Linux

uptime コマンドを利用して確認ください。

・Windows

タスクマネージャーで「パフォーマンス」タブの「稼働時間」を確認ください。

・VMware

uptime コマンドを利用して確認ください。

本事象発生時の復旧方法

本事象が発生しサーバが停止した場合は、以下のいずれかの方法を実施して、サーバを強制的にリブートして下さい。

1. BMC の機能による強制リブート

① BMC Web インターフェースに管理者権限を持ったユーザでログインします。

② Remote Control メニュー > Power Control メニュー > Power Cycle Server ボタンを選択 > Perform Action をクリック

2. 電源ボタンによる強制リブート

- ① 電源ボタンを長押し(5 秒以上)して強制的に電源を切ります。
- ② 電源ボタンを押して電源を投入し、サーバを起動してください。

13. Windows Server 2022 のライセンス認証について

Windows Server 2022 をインストールした際に手動でライセンス認証が必要になります。

手順は、公開ドキュメント (<https://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/pdf/note/ws2022-license-activation.pdf>) をご参照ください。

－ 以上 －